

2018年度(平成30年度) 三重県立高校後期選抜 分析と評価

eisū 教科分析チームの責任で作成された、各教科および五教科全体に対する分析と評価です。入試問題の研究・学習の参考資料になるよう作成されました。叙述の客観性を保証するものではありませんので、ご理解ください。(2018年3月12日)

国語	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年並みだが一部難問 ■ 大問の難易度 [1]並 [2]やや難 [3]並 [4]並 [5]やや難 [6]やや難
	eisū による分析と評価
	<p>全体的に情報を取捨選択する判断力、それを論理的にまとめる表現力が重視されている。特に大問2では本文の字数が約1,600字から約2,300字になり、さらに大問5でも文字数増加に加え複数の資料を利用する傾向が強まるなど、全体に情報量が増大している。</p> <p>また大問6の作文では、「仕事をするうえで大切なこと」というテーマで「協調性・責任感・積極性」について論じさせるなど、大学入試改革で注目される「主体性・多様性・協働性」と共通するテーマが採用されている。短時間で読解・記述するスピードが必要である。</p>

数学	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年並みだが一部難問 ■ 大問の難易度 [1]並 [2]やや易 [3]並 [4]やや難 [5]並
	eisū による分析と評価
	<p>全体の難易度は例年並みだが、トップ校の成否を分ける難問が数題含まれていたのが特徴である。</p> <p>たとえば大問3・4・5の最終問題は、深い論理的思考力を問うもので、特にハイレベルな空間認識能力が求められるなど、正答にたどりつくのはかなり難しかったはず。しかし難関校を目指すのであれば、こうした問題で正解する必要がある。</p>

社会	難易度
	<ul style="list-style-type: none"> ■ 昨年に比べ易化 ■ 大問の難易度 [1]並 [2]やや難 [3]易 [4]並 [5]並
	eisū による分析と評価
	<p>難易度は昨年に比べやや易化している。日頃から正しく努力していれば得点できたはず。</p> <p>ただ、知識の習得が大切なのはもちろん、問題を解くために必要な情報量が多いのが特徴。</p> <p>また、与えられた設問から自分で計算式を起こす数学的思考力や、複雑な情報を抜け漏れなく一文でまとめる国語力など、数学・国語をベースとした教科横断的な学力が求められている。</p>

難易度

- 昨年に比べ易化
- 大問の難易度 [1]並 [2]並 [3]やや難 [4]並

英語

eisu による分析と評価

かなり難化した昨年と比べると、今年は少し揺り戻した印象である。
ただ、県立入試の英語は、日本語を正しく読み、書く力がないと高得点に結びつかない問題が多いのが特徴。また、今年は高校レベルの語彙力が求められる局面があちこちに見られた。英語は新大学入試を見すえ、学年のリミットを外した、前倒し的な学習が必要な時代になったと言えるだろう。

難易度

- 昨年並みだが一部難問
- 大問の難易度
[1]やや難 [2]やや難 [3]並 [4]やや易 [5]やや難 [6]やや易 [7]やや難 [8]やや易

理科

eisu による分析と評価

難易度は全体的には例年並みだが、ほとんどの大問に難度の高い問題が1,2題含まれているのが特徴。
自然に対する数学的解釈や、単位や現象の持つ意味の理解、過不足ない情報を正確にまとめる表現力など、社会同様、国語・数学をベースとした教科横断的な学力が必要であった。

eisu による分析と評価

全体

五教科全体の難易度は例年並みだが、問題間の難易度の差が激しく、知識さえあれば即答できる問題もあれば、短時間で高度な「思考力・判断力・表現力」を要求される難問もあり、難関校を目指すのであればこういった難問からどれだけ得点できるかがカギになる。
そして、これらの高難度の問題に、新大学入試を見すえた傾向が特に見られたのも特徴であった。
結論としては、「知識・技能」をベースにした「論理的思考力・判断力・表現力」、つまりは国語力・数学力がモノを言う試験だったように思われる。

注意：このデータを紙などに印刷したり、それを配布したりする行為はご遠慮ください。